子宮内膜炎の予防が繁殖成績を上げる近道！

概　要 Abstract

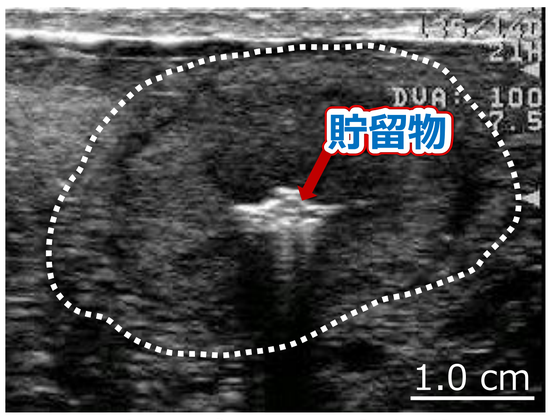
改良した子宮内膜炎の診断基準を用い、酪農場での分娩後6週目における子宮内膜炎の発生状況と発生要因を調査した。子宮内膜炎の発生率は40%であり、①乾乳期の過肥、②分娩前の牛群変更、③飼料摂取量の低下、④周産期病（胎盤停滞、代謝病）、⑤子宮炎などが発生要因であることを示した。また、子宮内膜炎の発生低減のための予防指針を示した。

＊子宮内膜炎とは？：**子宮の内膜が炎症**を起こす病気。発情周期の乱れや不妊の原因となる。

成　果 Results

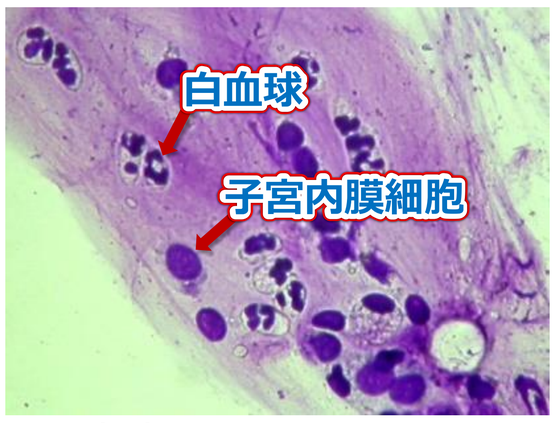
【診断基準】

超音波検査



・子宮に**多量の貯留物**

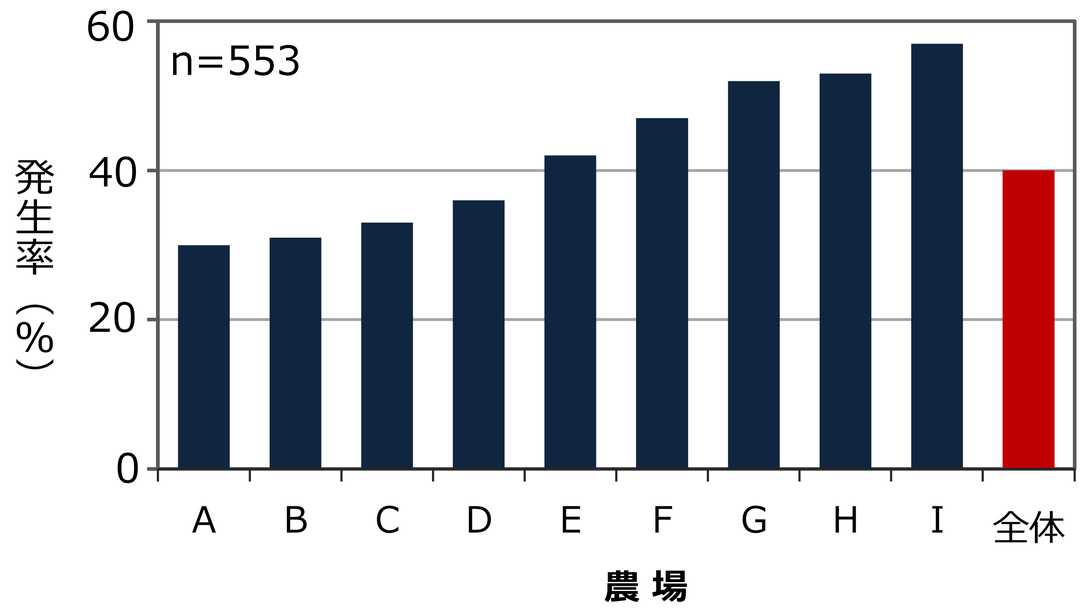
子宮内膜細胞診



・子宮内から回収した細胞中に**白血球５%以上**

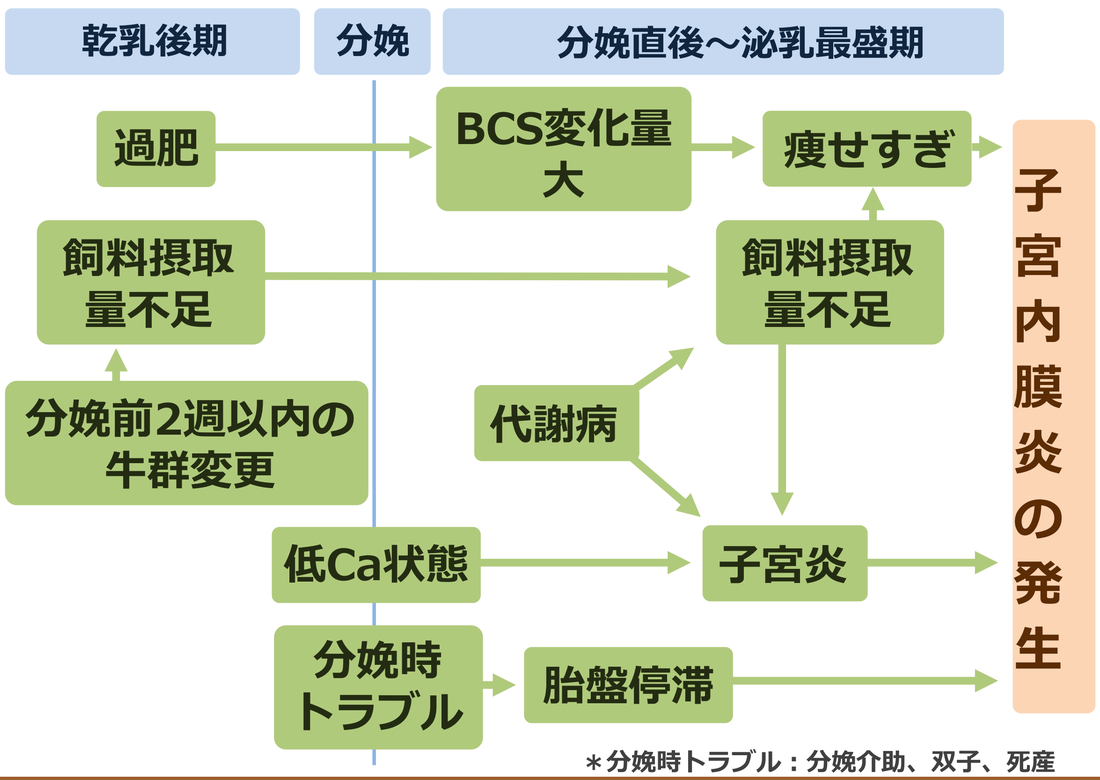
分娩後6週目に上記の**どちらかを満たした場合**、**“子宮内膜炎”**と診断する。

【子宮内膜炎の発生状況】

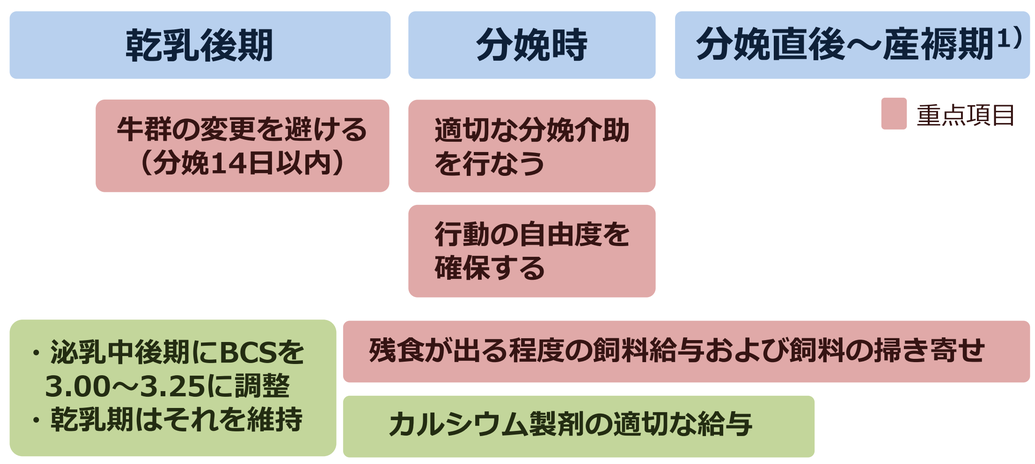


分娩後6週目の子宮内膜炎の発生率は**40%**。農場によって幅があった（30～57%）。

【子宮内膜炎の発生要因】



【子宮内膜炎の予防指針】



1）産褥期：分娩後21日以内　2）BCS（ボディーコンディションスコア）：牛の太り具合。1（痩）～5（太）

・**①乾乳後期のストレス軽減、②分娩しやすくダメージを与えない管理、③栄養充足**、がポイント

・発生要因が思いあたる、子宮の修復が悪いと感じた場合は、重点項目を中心に飼養管理を見直す。

普　及 Dissemination

・本試験の成績は、繁殖成績の改善が必要な農場において、子宮内膜炎が多発している場合に活用する。

・本試験で用いた子宮内膜細胞診の器具は自作品である。

連絡先 Contact

根釧農業試験場
研究部 乳牛グループ
0153－72－2004
konsen-agri@hro.or.jp